



# 捨てた日記

## 伊藤理佐

三十八歳でヨシダサン（漫画家・吉田戦車氏）と結婚して、同居を始める前、競うように「捨てる」のがはやってたんです。勢いで私は、ハタチ前から書き続けた二十年分の日記帳と、漫画のネタ帳を数十冊、ぜんぶ捨ててしまっただけ。ヨシダサンにすごくびつくりされました。ネタ帳はまだしも、日記をなぜ捨てたかね……作家としてもどうなんだ……と。

日記には、過去の恋愛のこともドス黒い気持ちも、なんでも書いていたから、あのときは、「今もし突然死んだら、これを読まれてしまう！」と思っただけです。案の定、捨てた直後からものすごく後悔しました。いらぬ洋服なんかはたくさん残っているのに、いちばん大切なものから捨ててしまったなあ……と。

そのあと日記は続けています。四十歳で娘が生まれて、一年間は別に育児日記も書いて。一歳からは、娘のことも折々、自分の日記に記録をとっています。育児漫画も描いているので、子どもについては自分の日記もネタ帳です。

この五年、日記はスケジュール帳を兼ねて手帳に書いていて、打ち合わせのメモなんかも一緒になっています。日記は毎日書けなくても、手帳の白い部分は、それはそれで、この頃忙しかったんだなと後でわかって面白い。ちよこつと絵を描き込んだら、色鉛筆で色も塗ります。去年までの手帳もすぐ手に取れるところに置いてあって、一年前の今日は何をしていたかな……同じことをやってる！と発見したりする。逆に、娘がまだ小さい時期の、ある日のタイムスケジュールを見ると、こんな時間に洗濯してた！とびつくりしたりする。

梅シロップを漬けた量とか、青梅はいつ買ったとか……こんな風流なことだけでなく、好きなお店のパーゲンセールは何月何日に始まるなんて記録も、読むと面白いし備忘録として役に立っています。今の日記は、来年の自分を楽しませるために書いているような感じですが。自給自足！ 未来の自分へのサービス。もう、日記にイヤなことは書かないようにしています。来年の自分が読んでも



いとうりさ●漫画家。1969年長野県生まれ。2005年、『おいピータン!!』で第29回講談社漫画賞少女部門受賞。2006年、『女いっぴき猫ふたり』『おんなの窓』など一連の作品で第10回手塚治虫文化賞短編賞を受賞。2007年に同じく漫画家の吉田戦車氏と結婚。2010年に第一子出産。「週刊文春」巻末のひとコマ漫画「おんなの窓」は連載14年目。近著に「おかあさんの辰」[ステキな奥さん ぶはっ]など。

大丈夫なように、そして、いずれ娘が読むことがあっても、大丈夫なように。

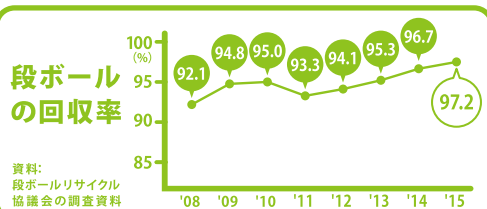
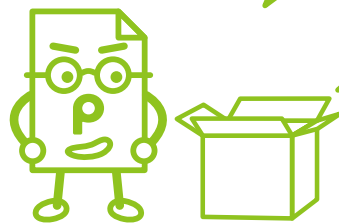
そもそも、あえて書かなくても、余白に気持ちは残っているから、読むと思いつくんですよね。あえて書かなかった気持ち、書きたくなかった気持ちまで、思いつく。

ヨシダサンは日記をパソコンで書いているから、「あのラーメン屋にはいつ行った？」なんてことをすぐ検索できて、便利です。でも、私は紙に書きたい。エッセイの原稿を書くときも、仕上げはパソコンでも、下書きは紙とペンじゃないとできないんです。漫画のネタも、絶対、紙に書きたい。パソコンやスマホでネタを打ち込むのと、紙に書くのでは、文字としては同じことを書いていても、そこにある情報量がまったく違うから。余白にも、書かなかった気持ちや、見えない情報が残っている。これは、紙ならではの良さだと思います。

### ペーパー君のつぶやき 活動

#### 段ボールは、ほぼ段ボール製。

使用済みの段ボールのほとんどが回収され、リサイクルされているんだって。なんとその割合は95%以上。つくる側と使う側、お互いの協力で高いリサイクル率が保たれているんです。さらに回収率を上げるために、つぶしやすくして量みやすい段ボールの開発も進んでいるんだって。



紙のことをもっと伝えたい。詳しくは、<http://kamitsubu.com/>「ペーパー君のつぶやき」WEBサイトをご覧ください。

今回は11月2日号、羽田圭介さんです。

提供 ● 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>

photo:Shiro Miyake